

看護職員の需給に関する調査 －2007年5月調査－

本資料は7月4日(水)に行われた、記者会見資料として配布されたものの訂正版です

2007年7月5日

社団法人日本医師会

調査概要

■目的

2006年10月に、当時の看護配置基準と今後の配置基準予定を中心に調査を行った(以下、前回調査)。

前回:「看護職員の需給に関する調査－2006年10月調査－速報版」

<http://www.med.or.jp/nichikara/kango/index.html>

その後の変化を把握するため、2007年4月に追跡調査を行った。

■対象

前回調査において有効回答があった病院2,091、看護学校養成所1,014。

■回答数

病院1,099(回答率52.6%)・・・全国の病院の12.3%をカバー

看護学校養成所634(回答率62.5%)

・・・全国の看護学校養成所の46.5%をカバー

※以下、前回調査と結果を比較している項目では、前回、今回とも有効な回答があった施設を対象とした。また病院の「7対1」に関しては、一般病床を有する病院のみを対象とした(結核病棟入院基本料の「7対1」などは対象外)。

調査結果のポイント

病院調査

1. 前回調査に比べて、大規模の公立病院で「7対1」比率が上昇。
2. 賞与月に看護職員が流出。また小規模病院から流出大。
3. 新卒者が「7対1」に集中。看護師数の増加分はほぼすべて「7対1」に吸収されていると推察される。

看護学校養成所調査

1. 大規模病院への就職者が増加
2. 大学病院、国公立病院への就職者も増加

病院 一般病棟における看護配置基準

一般病棟において「7対1」を算定している病院は2006年10月は12.5%であったが、2007年4月には15.4%になった。また2007年2月から2007年4月にかけての2か月間で1.5ポイント上昇しており、年度が代わった時点での上昇率が高い。

看護配置基準別 病院構成比

	2006年10月	2006年12月	2007年2月	2007年4月
一般病棟入院基本料(N=997)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
7対1	*1) 12.5%	13.1%	13.9%	15.4%
10対1	54.6%	54.2%	54.8%	54.3%
13対1	16.3%	15.8%	14.9%	13.8%
15対1	14.0%	14.1%	13.6%	13.8%
特別	2.5%	2.7%	2.7%	2.6%
(再掲) 特定機能病院(N=34)※	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
7対1※	5.9%	5.9%	2.9%	5.9%
(再掲) その他(N=963)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
7対1	12.8%	13.4%	14.3%	15.8%

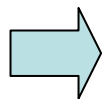
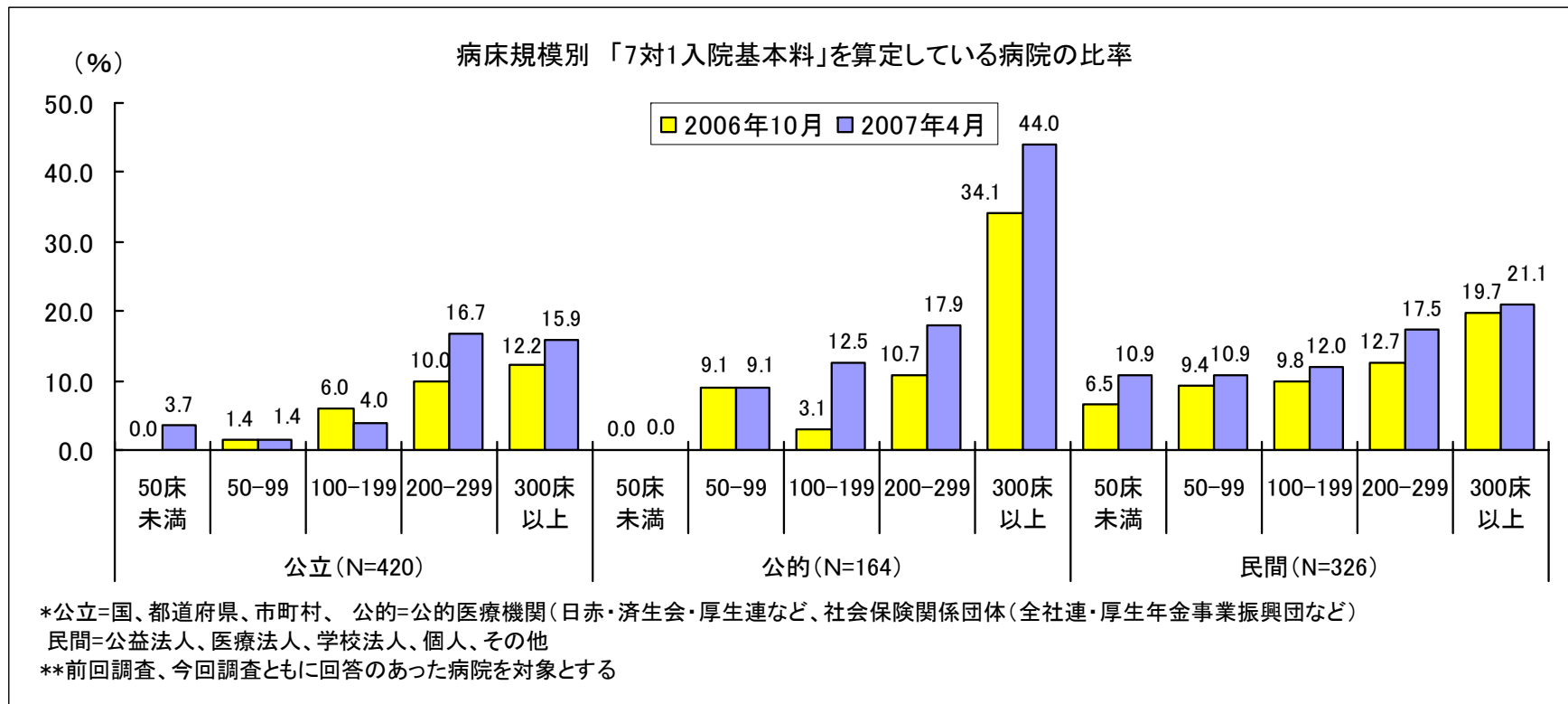
※本調査では、私立の特定機能病院の10対1比率が高いため、特定機能病院全体の7対1比率が低い

*1) 前回調査(N=1,503)では、2006年10月の「7対1」病院構成比は10.6%

病院 一般病棟における看護配置基準－開設者別・病床規模別－

前回調査に比べ、特に「7対1」比率が増加したのは、公立200-299床、公的100-199床・200-299床・300床以上であった。

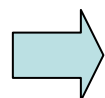
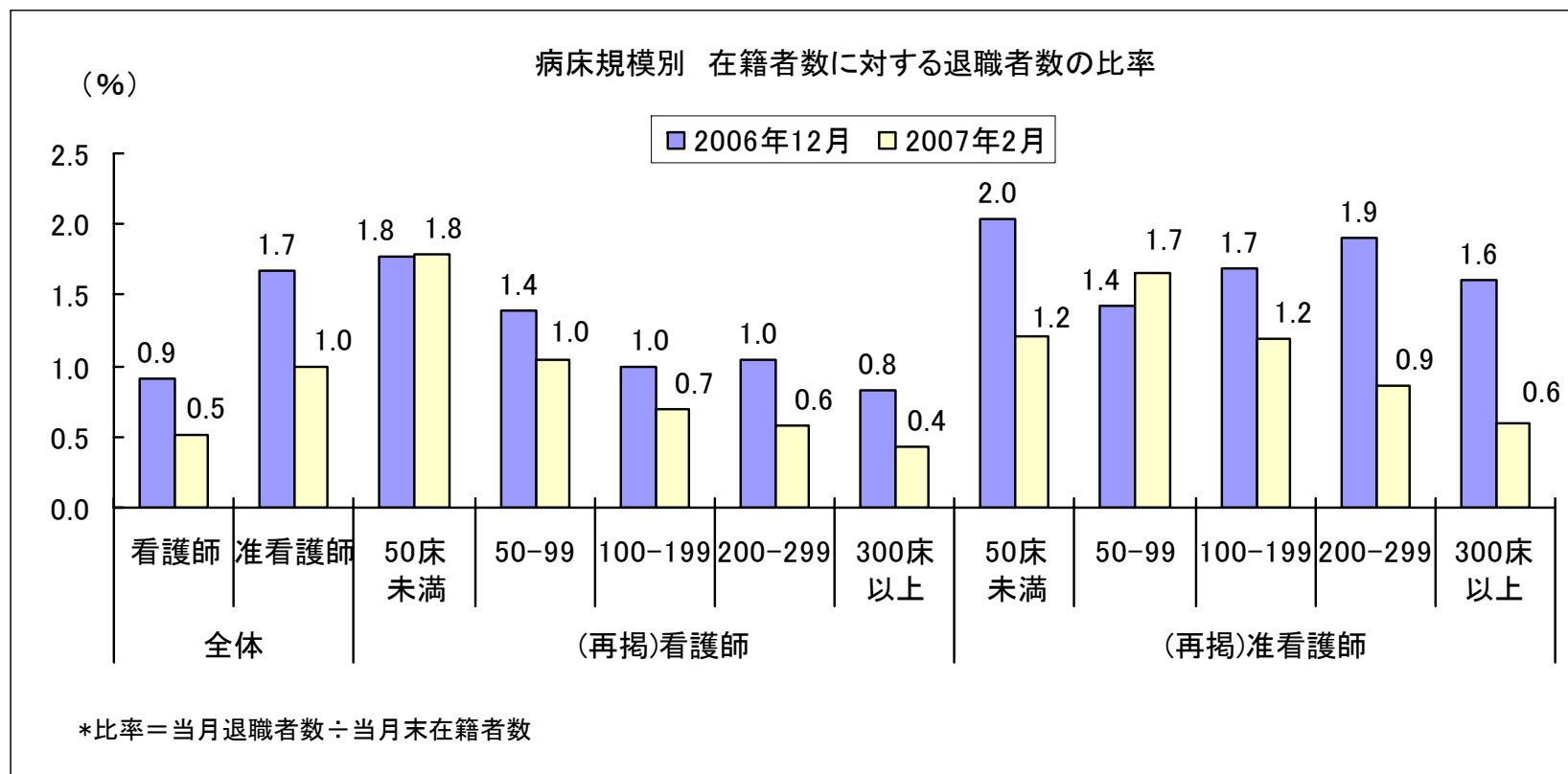
また、公立病院では200床以上の病院とそれ以下とで差が開き、公的病院では300床以上の病院の「7対1」比率が半数近くに迫った。



公立・公的病院を中心に大規模病院と中小病院の差が開いている

病院 退職者のあった病院における退職者比率

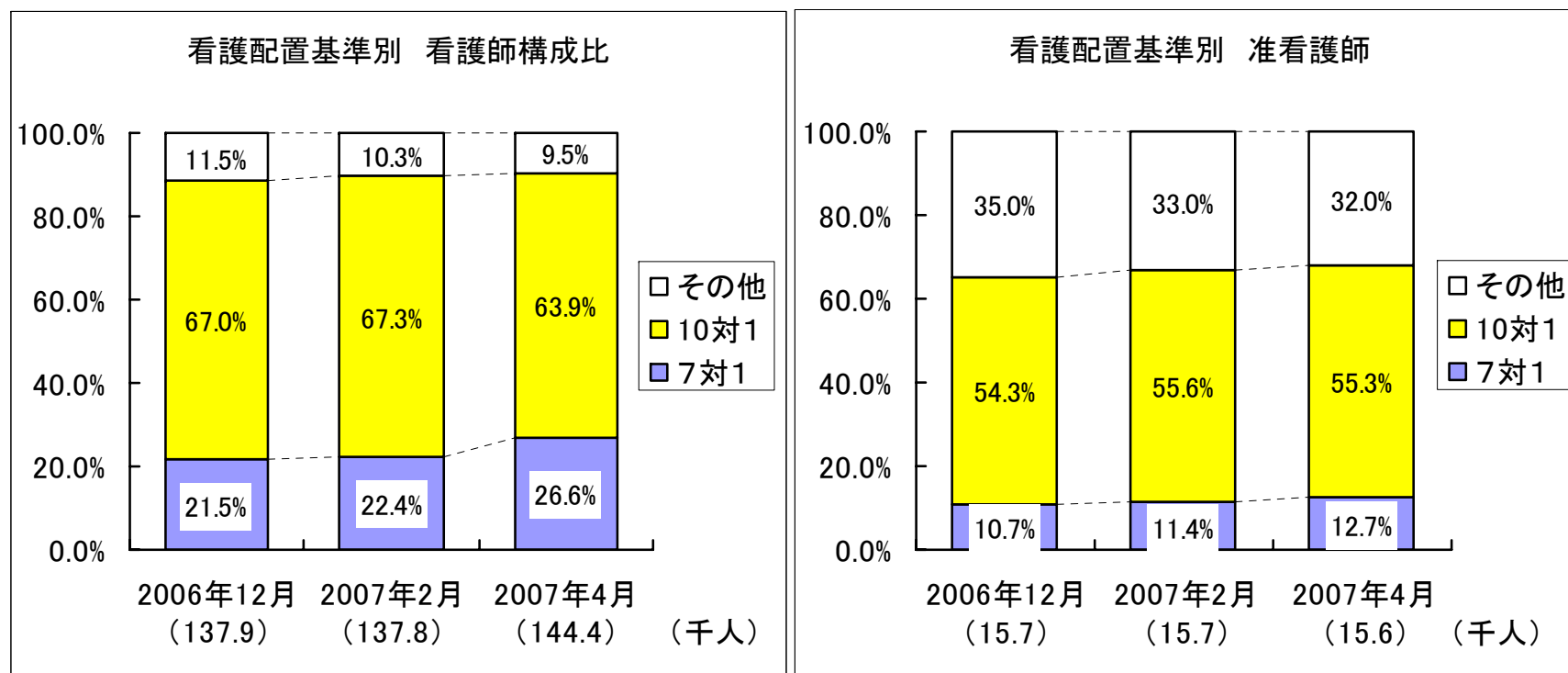
看護師・准看護師ともに12月に退職する比率が高かった。また、看護師において病床規模の小さい病院ほど退職者数の比率が高かった。



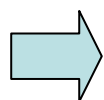
賞与月に、かつ小規模病院からの転出がより多い

病院 看護配置基準別 看護職員構成比

2007年4月における「7対1」算定病院に勤務する看護師の比率は、看護師全体の26.6%で、2006年12月の21.5%よりも5.1ポイント増えた。准看護師も「7対1」病院に勤務する者の比率が若干上昇している。



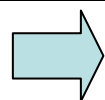
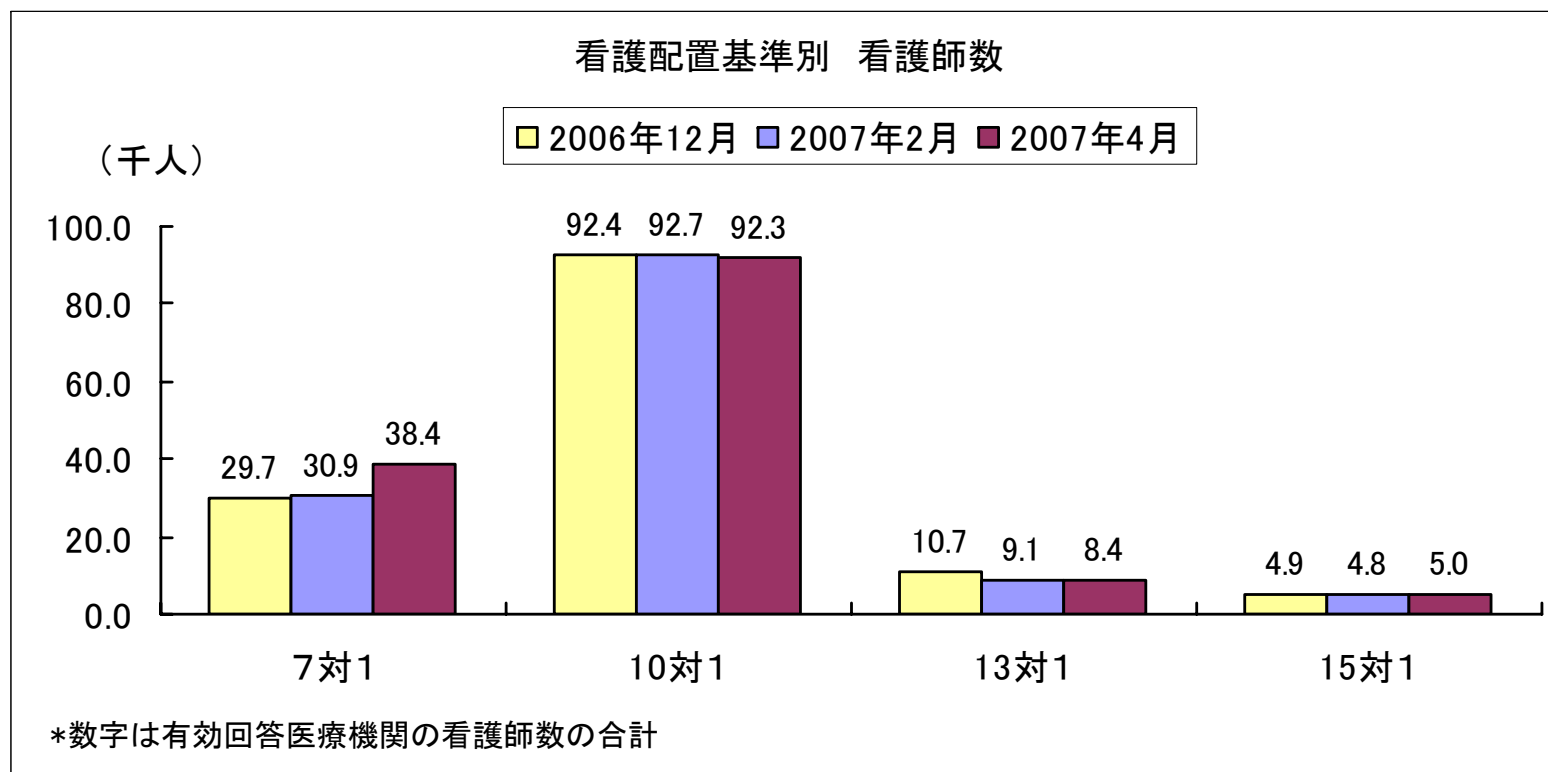
**()内は、有効回答医療機関の職員数合計



4月採用者(特に新卒)が「7対1」に集中していると推察される

病院 看護配置基準別 看護師数

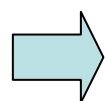
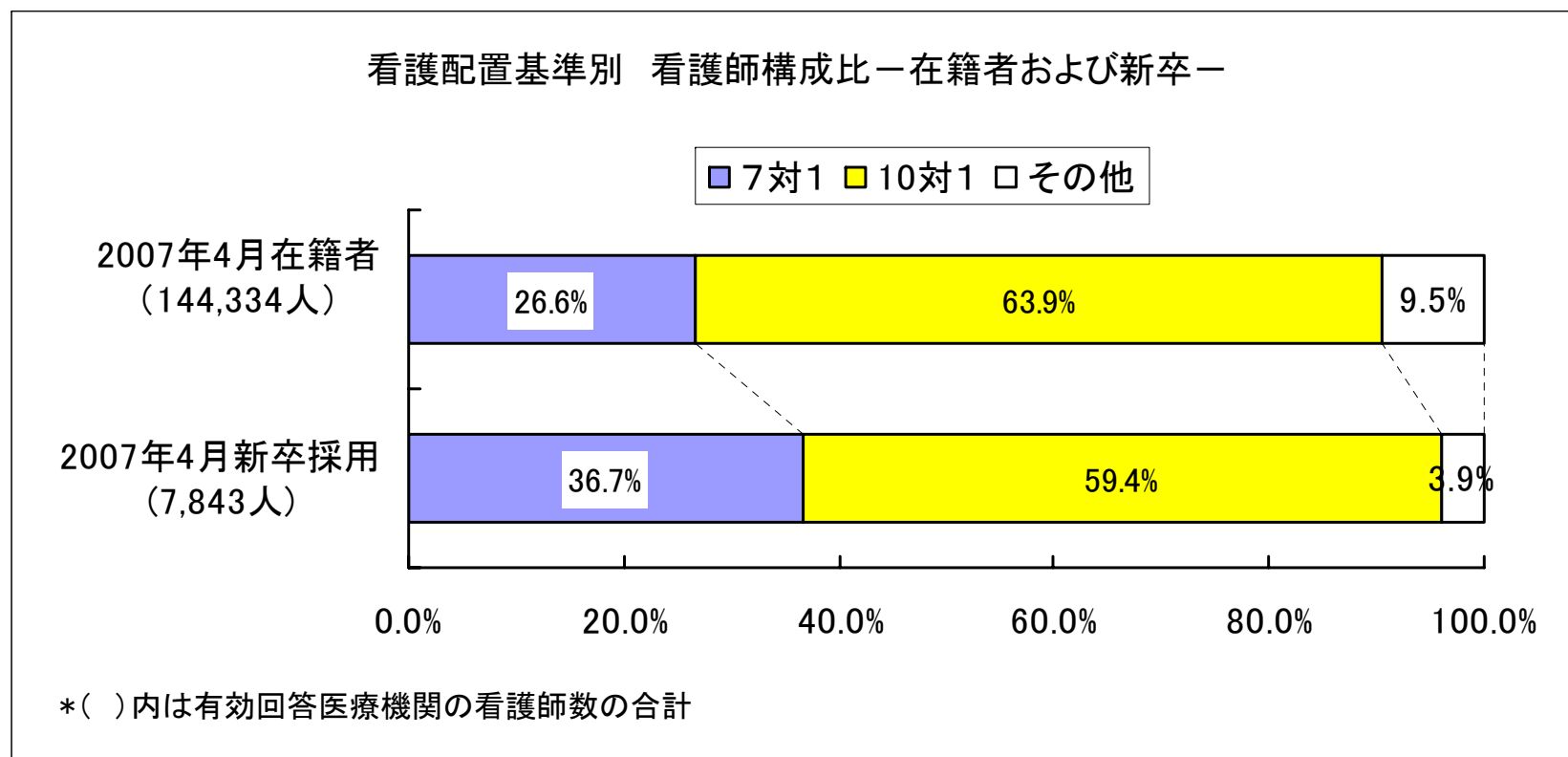
「7対1」病院に勤める看護師数は、2006年12月から2007年4月までの4か月間で1.3倍になった。「15対1」は微増、「10対1」では横ばいであった一方、「13対1」では2割減となった。



看護師数の増加分は、ほぼすべて「7対1」に吸収されていると推察される

病院「7対1」病院の新卒在籍状況

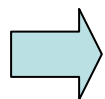
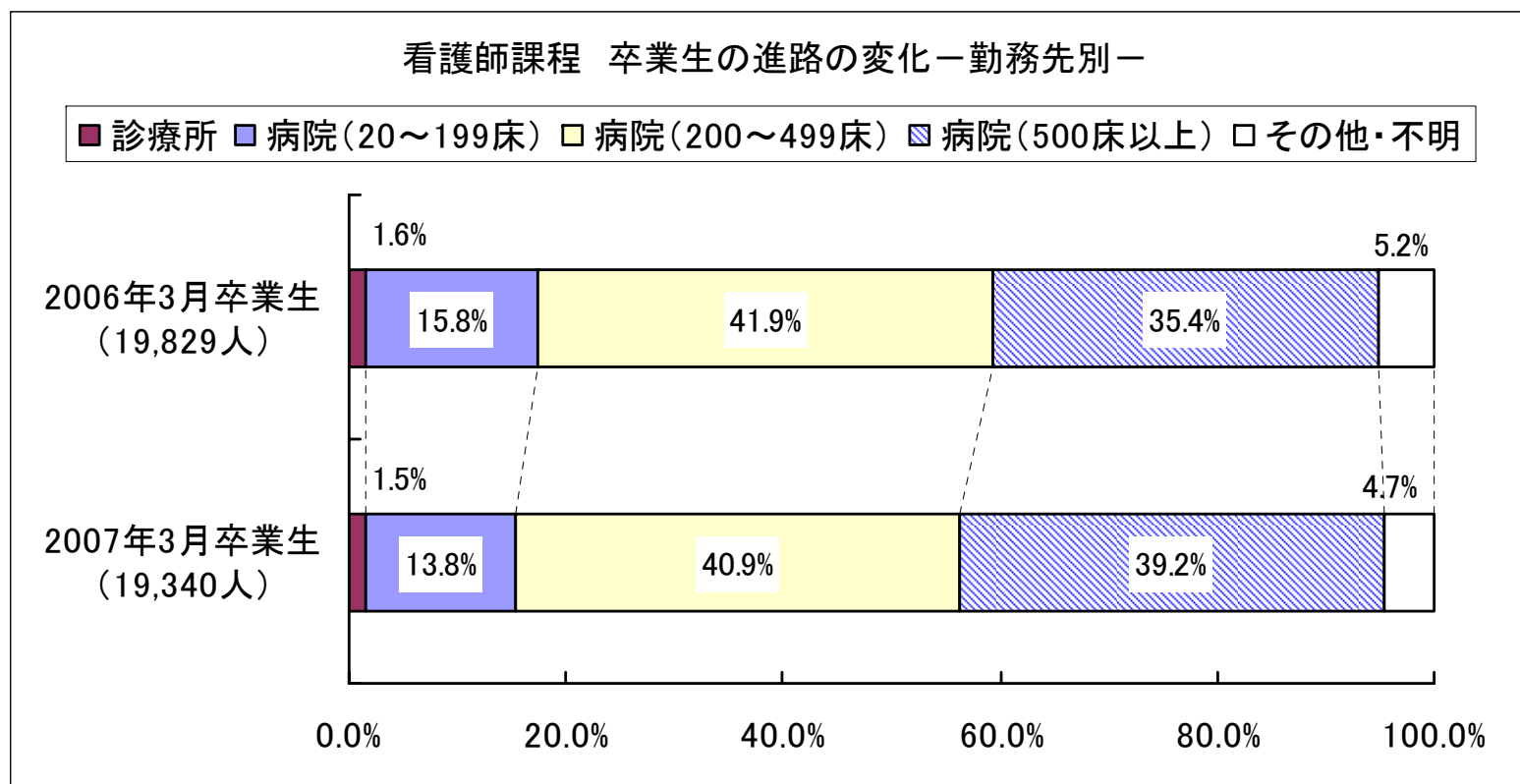
2007年4月の「7対1」病院の在籍者は、全体で26.6%であったが、新卒看護師の「7対1」病院の在籍者数は36.7%と、比率が在籍者に比べ10ポイント以上高かった。



新卒が「7対1」に吸収されていることは明らか

看護学校養成所 看護師課程の進路(1)

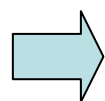
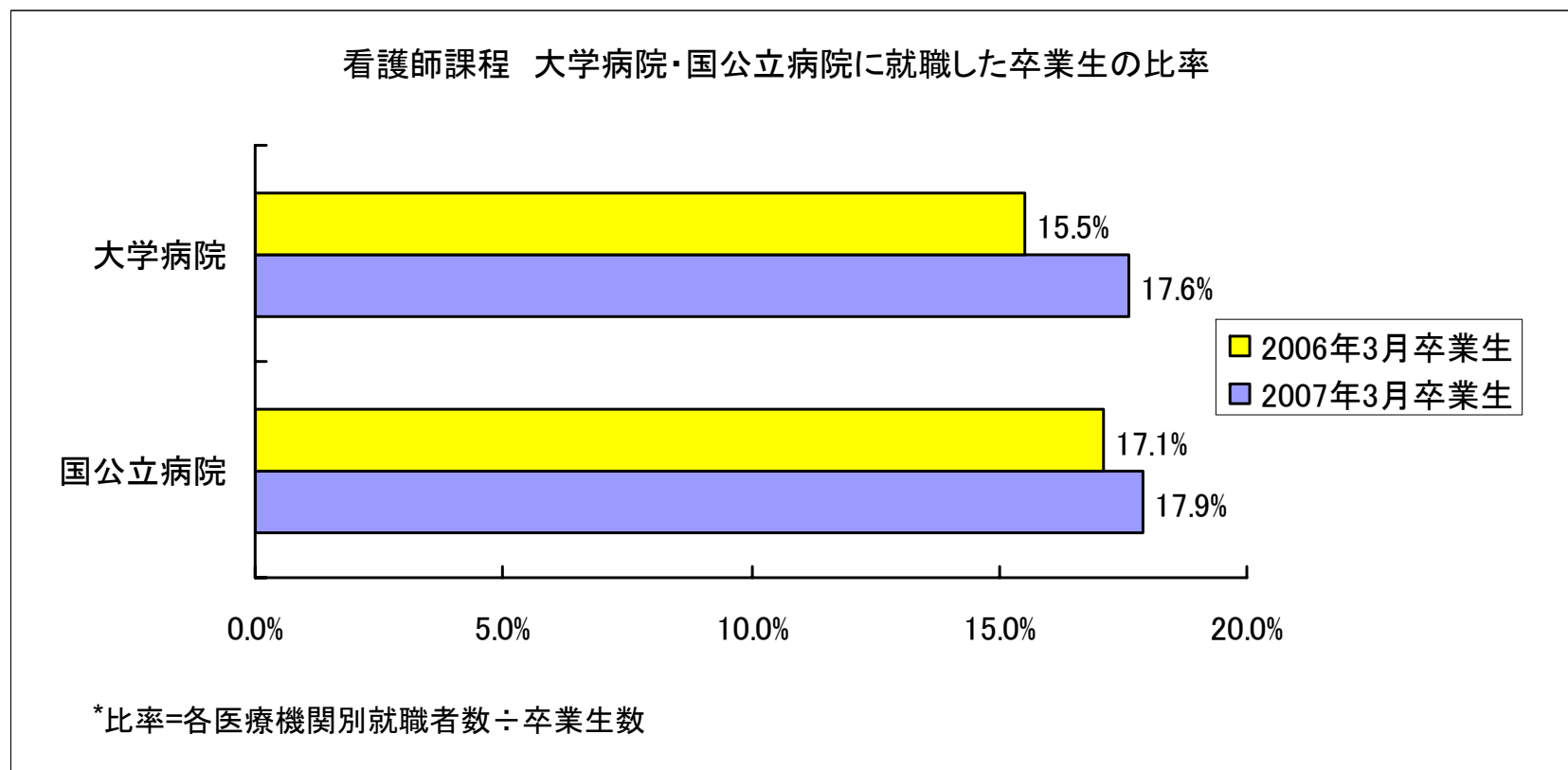
2006年3月と2007年3月の卒業生の進路の変化を見ると、500床以上の病院に就職した卒業生は35.4%から39.2%となり、3.8ポイント上昇している。



大規模病院へ就職する卒業生が拡大している

看護学校養成所 看護師課程の進路(2)

看護学校を2006年3月に卒業した看護師の進路先は、大学病院が15.5%、国公立病院が17.1%であったが、2007年3月の卒業生はそれぞれ17.6%、17.9%と上昇した。

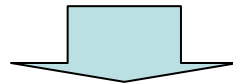


大学病院、国公立病院への就職者はいずれも明らかに増加

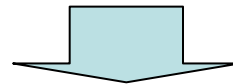
日本医師会の主張

調査結果より

大規模病院、または大学病院、国公立病院などへ看護職員が集中、偏在



地方の小規模医療機関の危機



1. 夜勤「72時間ルール」の見直し
2. 新規算定の保留
3. 算定要件の見直し